



第16772号
海員組合

飲んでよく効く薬より
控えて防ごう
習慣病

船団側に具体的回答求め、

鋭意交渉続く

協約改定闘争 第3回・第4回中央交渉

期限内解決に向け鋭意交渉を重ねるも

労使双方の考え方に大きな乖離

協約改定闘争・中央交渉、日本カーフェリー交渉委員会は、第3回目を3月16日、第4回目を同月22日にホテルマリナーズコート東京で開催した。組合要求項目について具体的な回答を求め鋭意交渉を重ねるも、船団側は具体的な回答を示さず、何ら進展が見られない船団側の交渉姿勢を厳しくただした。その後、中断を挟みながら解決に向けて小委員会形式での交渉を重ねたが、労使双方の考え方に大きな乖離(かいり)があり具体的な進展は図れなかった。解決に向け真摯(しんし)に検討するよう求め、小委員会を中断した。

内航二団体の中央交渉は、第3回内航交渉委員会を同月14日、第4回目を23日に組合本部地下大会議室で開催した。また、全内航の中央交渉は第3回全内航交渉委員会を14日に、第4回目を23日に組合本部地下大会議室で開催し、内航交渉委員会、全内航交渉委員会ともに鋭意交渉を重ね、期限内解決に向けて小委員会形式での協議を行うも協議は平行線。再度、解決に向けて検討するよう強く求め、小委員会を中断した。

日本カーフェリー

交渉委員会

組合要求を逐条審議

▽基本給について

船団側は、燃料油価格が上

た。その後、論議を続けるも、具体的な回答を示さない船団側の交渉姿勢をただし、ベアを含めた全ての項目の再検討を求め、交渉を一時中断した。

解決に向けた

真摯な検討求める

交渉再開後、船団側に検討した結果についてただしたところ、期限内解決に向け形式にとらわれない形で協議を行いたいとの申し出があった。

このため解決に向けた協議であれば問題ないとして、再度交渉を中断。小委員会に入った。

第3回・第4回

内航交渉委員会

(概要)

「船内衛生作業手当」「船長水先慰労金」「基本給」について逐条審議を行った。基本給について船団側は、四囲の状況を踏まえればベアの必要性について一定の理解はするが、内航海運業界を取り巻く状況は厳しく、鋭意検討を行ったが船団内部で取りまとめができておらず、具体的な回答はできないとの考えを示した。

これに対し組合側は、期限も迫る中、早急に誠意ある回答を示すべきであることを強く訴え、ベアを含めた全ての項目に対し再検討を要求。交渉を一時中断した。

再開後、船団側に対し検討した結果をただしたところ、

期限内解決に向けて、形式にとらわれず協議を行いたいとの申し出がなされた。解決に向けた協議であれば、やぶさかではないとして、交渉を一時中断し、小委員会に入った。

その後、双方人数を絞った小委員会形式で協議を行ったものの、組合要求と船団側の考え方に乖離があり、協議は平行線。このため、解決に向け再度持ち帰り検討するよう強く求め、小委員会を中断した。

期限内解決に向けて、形式にとらわれず協議を行いたいとの申し出がなされた。解決に向けた協議であれば、やぶさかではないとして、再度交渉を中断し、小委員会に入った。

その後、双方人数を絞った小委員会形式で協議を行ったものの、組合要求と船団側の考え方に乖離があり、協議は平行線をたどった。このため、解決に向け再度持ち帰り検討するよう強く求め、小委員会を中断した。

第3回・第4回

全内航交渉委員会

(概要)

「労務作業手当」「船長水先慰労金」「Mゼロ船機関部手当」「Mゼロ船慰労金」「基本給」について逐条審議を行った。基本給については、船団側は、後継者確保のためにもベアは必要であると認識しているが、運賃・用船料の低迷など内航海運業界が置かれている状況は厳しく、現段階で具体的な回答は示せないとの考えを示した。

これに対し組合側は、期限も迫っており、早急に誠意ある回答を示すべきであることを強く訴えた。

船団側からは全ての項目について期限内解決に向けて、形式にとらわれず協議を行いたいとの申し出がなされた。解決に向けた協議であれば、やぶさかではないとして、交渉を一時中断し、小委員会に入った。

その後、双方人数を絞った小委員会形式で協議を行ったものの、組合要求と船団側の考え方に乖離があり、協議は平行線。このため、解決に向け再度持ち帰り検討するよう強く求め、小委員会を中断した。